

## 条件表現

三井はるみ

### A 解説

#### 1. 条件表現とは

複文の中で、後件の成立について前件が何らかの関係で条件となっていることを表す表現を条件表現という。

条件表現は、一方では、できごとを仮定的に予想しているのか（仮定）、実際に起こったできごとについて述べているのか（事実、確定）に分かれ、他方で、順当に予想される結果が起こった場合（順接）と、そうでない場合（逆接）に分かれて、全体として、次のような四つに分類されるのが一般的である。

	仮定	事実（確定）
順接	努力すればできるようになる	努力したのでできるようになった
逆接	努力してもできるようにならない	努力したのにできるようにならなかった

ここではこの四分類のうち、「順接仮定」の部分に焦点をあてる。共通語では、「ば」「たら」「と」「なら」「ては」などが、順接の仮定条件文を構成する代表的な形式である。

#### 2. 日本方言の条件表現

方言の条件表現を取り上げるにあたっては、共時的な方法に限っても、少なくとも次の三つの観点が考えられる。

- (1) 諸方言における形式のバリエーションと分布を明らかにする。
- (2) 特定の形式の意味用法を記述する。
- (3) 特定の方言における、条件表現の体系を記述する。

もちろんこの後に、記述された各地の体系を比較対照して、変化を跡づけることも重要な課題である。

このうち、(1)については、国立国語研究所編『方言文法全国地図』（GAJ）に取り上げられている条件表現関連項目が参考になる。GAJに取り上げられている項目は、「『方言文法全国地図』所収の条件表現関連項目」という一覧表（『同 第4集解説書』p.129）にまとめられているので、次に引用しておく。これは、GAJ第1～4集所収の関連項目を、1.の四分類にさらに細分類を加えて整理したものである。なお、現在印刷中の第5集では、さらに次の2項目が加わる予定である。

表 「方言文法全国地図」所収の条件表現関連項目

		仮 定		確 定(事実)	
順 接	反事実	3-126 起きれば(よかった)<仮定形1> 3-127 任せれば(よかった)<仮定形1> 3-128 書けば(よかった)<仮定形1> 3-129 死ねば<仮定形1> 3-130 来れば(よかった)<仮定形1> 3-131 すれば(よかった)<仮定形1> 3-143 高ければ(よかった)<仮定形1> 4-153 行かなければ(よかった)<否定表現a>		必 然 (原因理由)	1- 33 降っているから(行くのはやめろ) 1- 35 だから(言ったじゃないか) 1- 37 子どもなので(わからなかった)
	仮 説	4-167 降れば(船は出ないだろう)<条件表現> 4-168 降ったら(おれは行かない)<条件表現> 4-169 行くと(だめになりそうだ)<条件表現> 3-116 来られると(困る)<受身形> 3-132 起きるなら(飯を作っておいてくれ)<仮定形2> 3-133 書くなら(きれいに書いてくれ)<仮定形2> 3-134 来るなら(電話をしてから来てくれ)<仮定形2> 3-135 するなら(早くしてくれ)<仮定形2> 3-144 高いなら(買わない)<仮定形2> 3-150 静かなら(住んでみたい)<仮定形2> 4-154 行かないなら(おれも行かない)<否定表現a>		偶 然	4-170 行ったら(終わっていた)<条件表現>
逆 接	4-171 行っただけだ<条件表現> 4-157 行かなくても(よい)<否定表現a>			1- 38 寒いけれども(がまんしよう) 1- 39 だけど(行かなければならない) 1- 40 植えたのに(枯れてしまった)	

※ 数字は、集-地図番号

5集206～208図「行かなければならない」<義務表現>(順接-仮定-仮説)

225～226図「行ってはいけない」<禁止表現>(順接-仮定-仮説)

これらの地図を概観すると、条件表現、特に、以下で取り上げる仮定条件表現の項目では、九州の「ギ」、東北北部の「タキヤ」などが見られるものの、方言特有の形式は総じてあまり多くない。目立つのは、共通語で類義関係にある「バ」「タラ」「ト」「ナラ」などの形式が、1枚の地図(同一の調査文に対する回答)の中に、それぞれ固有の領域を持って分布している点である。

例えば、第3集128図「書けば(よかった)」では、近畿を中心に「カイタラ」が分布し、その両側を「カキヤ」が取り巻き、さらにその外側の九州と、関東東部から東北にかけて、「カケバ」が分布するという周囲分布が見られる。また、「カクト」が九州と東北南部に、「カクナラ」が熊本に、それぞれまとまった分布域を持っている。

このような分布の様相から、(2)(3)についても、共通語と同形の形式が用いられていても、その形式の意味用法や体系が方言ごとに異なっていることが予想される。

### 3. 調査の着眼点

ここでは、各地方言の順接仮定条件を担う複数の形式の意味用法の違いを記述することを念頭に、共通語文法の研究成果などを参考にして、ポイントとなると見られる点を箇条書きで挙げる。「B項目」と対応するものについては、調査文の番号を示す。

#### (1) 順接仮定条件の諸用法

- ・ 仮説的用法——未実現の事態について、実現した場合を仮定する用法 1)～4)
- ・ 反事実的条件——現実には実現しなかった事態を、仮に実現したものと仮定する用法 5)～9)

- ・ 一般条件——前件の下では後件がいつでも時間を超えて成り立つことを述べる用法  
10)11)
  - ・ 反復習慣——前件に伴って後件が実現する，ということがくり返し起こることを述  
べる用法 12)13)
  - ・ 事実的用法……すでに実現した一回限りの事態について述べる用法 15)～20)
  - ・ 前置き——前件と後件が同じ次元の事態で構成されない用法 14)
- (2) 前件と後件の内容
- ・ 前件と後件の組み合わせ
    - 時間的前後関係 21)～25)
    - 動作 / 状態 15)16)20)
    - 主語 (同じ / 違う) 17)18)
  - ・ 後件のモダリティー制限 (働きかけ・表出) 26)～33)
  - ・ 後件の意味的制限
    - 期待 / 反期待 34)～38)
    - 評価の表現 19)25)
  - ・ 前件の意味的制限
    - 確実 / 不確実 33)39)～41)
    - 動作 / 状態 26)27)
    - 意志的 / 非意志的 61)～67)
- (3) 慣用的表現 42)～45)
- (4) 周辺の用法
- ・ 提題・対比用法 46)～50)
  - ・ 接続詞的用法 51)～56)
  - ・ 終助詞的表現 57)～60)
  - ・ 疑問詞の係り結び 68)～72)
- (5) 共起する副詞 30)
- (6) 従属節の従属の度合い
- ・ 述部に現れる要素
- (7) 語感・位相 (かたい, くだけた, 強い...)
- (8) 年齢差・変化

#### 4．研究の現状

前述のとおり，『方言文法全国地図』によって，取り上げられている用法や調査文については，全国分布を把握することができる。また，順接仮定条件表現を担う特定の形式の意味用法の記述，特定の方言における体系記述については日高(1999a)，日高(1999b)などがあり，近年研究が進められつつある。

#### 5．発展

ここでは，条件表現のうち，順接の仮定条件表現に絞って取り上げたが，隣接する，逆接仮定 (譲歩の表現)，事実的な順接条件 (原因・理由の表現)，事実的な逆接条件につ

いても細やかな記述が必要であることはもちろんである。「3. 調査の着眼点」で挙げた観点には、これら他の条件表現形式の記述にも共通して有効な観点が含まれている。歴史的に見ても、順接仮定条件と原因・理由の表現は形式の面でも意味の面でも交流があったことが知られており、この点からも、条件表現全体を包括的に取り上げていくことが必要であると考えられる。

## 6. 文献

小林賢治(1996)『日本語条件表現史の研究』(ひつじ書房)

阪倉篤義(1993)『日本語表現の流れ』(岩波書店)

真田信治(1989)「話しことばの実態」『日本語のバリエーション - 現代語・歴史・地理 - 』(アルク)

蓮沼昭子・有田節子・前田直子(2001)『セルフマスターシリーズ7 条件表現』(くろしお出版)

日高水穂(1999a)「秋田方言の仮定表現をめぐって - バ・タラ・タバ・タッキヤの意味記述と地域的標準語の実態 - 」『秋田大学教育文化学部紀要』54

日高水穂(1999b)「ことばに関するアンケート調査 1997-1998」『秋田大学ことばの調査』第1集

益岡隆志編(1993)『日本語の条件表現』(くろしお出版)

## B 項目

項目は「共通」「地域対応」の二部からなる。「共通」は、各地の方言で調査するための比較的基本的な項目、「地域対応」は、限定された地域に見られる事象をやや詳しく調べるための項目である。ただし、両者の区別は厳密ではなく、また、「」で取り上げたのは2地域だけなので、サンプルとしての意味合いが強い。

調査文の出典は、次の略号で示す。

(GAJ) 方言文法の全国調査調査票 (『方言文法全国地図』の調査票)

(準) 方言文法の全国調査のための準備調査票 (『方言文法全国地図』の準備調査の調査票)

(日) 日高水穂(1999)「ことばに関するアンケート調査 1997-1998」『秋田大学ことばの調査』第1集

ただし、ここでの項目の構成に合わせて、一部語句を変更したことがある。

【 】の中に、各項目の設定の観点を簡単に示した。

各形式の接続については、「活用」の項目と組み合わせて調査を行うことを前提とし、以下の項目には挙げていない。特に「～バ」については、いわゆる未然形接続 (cf. 書カバ) と已然形接続 (cf. 書ケバ) など、接続の違いによって、意味用法に違いがある方言が知られているので、注意が必要である。

### 共通

#### 1 仮説的用法

- 1) 努力すればできるようになります。【述べたて】(日)
- 2) 努力すればできるようになりますか？【問いかけ】
- 3) あした雪が降ったら船は出ないだろう。【述べたて(推量)】(GAJ)
- 4) あした雪が降ったら学校は休みになりますか？【問いかけ】

#### 2 用法の広がり

- 5) もっと早く起きればよかった。【反事実的条件】(GAJ)
- 6) 目覚まし時計をかければよかったじゃないか。【反事実的条件】
- 7) もっと早く来れば間に合ったのに。【反事実的条件】
- 8) あんなところに行かなければよかった。【反事実的条件 / 前件：動詞否定】
- 9) もっと安ければいいのに。【反事実的条件 / 前件：形容詞】(日)
- 10) 1に1を足せば2になる。【一般条件】(日)
- 11) だれだって年をとれば具合の悪いところも出てくる。【一般条件】
- 12) あの人の家に行くといつもごちそうしてくれる。【反復習慣(現在)】(準)

- 13) 昔は、稲刈りが終わるとみんなで酒盛りをした。【反復習慣(過去)】  
 14) 今思えば、若いころはずいぶんむちゃをしたなあ。【前置き】

### 3 事実的用法

- 15) そこへ行ったらもう会は終わっていた。【前件：動作 / 後件：状態 発見】(GAJ)  
 16) 昨日、散歩をしていたら急に雨が降ってきた。【前件：状態 / 後件：動き 出現】(日)  
 17) 手紙を出したらすぐ返事がきた。【前件が後件の契機(前件・後件異主語)】  
 18) あわてて来たら忘れ物をしてしまった。【同一主語の連続した動作】  
 19) [難しい試験で80点を取った子どもに]  
     いや、それだけでできればたいしたものだよ。【後件：評価】  
 20) 「空襲の後、人がたくさん逃げてきました。焼け跡に行けば、亡くなった人がたくさん倒れているし、とてもひどい様子でした。」【発見】

### 4 前件と後件の時間的前後関係など

- 21) 家に来るなら電話をしてから来てください。【後件 前件 / 文末：依頼】  
 22) 町に行くならみんなで一緒に行こう。【同時 / 文末：勧誘】  
 23) 先に行くならむこうで待ってて。【前件 後件 / 文末：依頼】  
 24) [自分が今読んでいる本を読みたそうにしている友人に]  
     読むなら貸してあげるよ。【後件 前件 / 文末：申し出】  
 25) 魚を買うなら朝市がいい。【後件：評価】

### 5 後件のモダリティー制限

- 26) 駅に着いたら電話をしてください。【前件：動作性 / 文末：働きかけ(依頼)】  
 27) 道がわからなかったら電話をしてください。【前件：状態性 / 文末：働きかけ(依頼)】  
 28) ご飯を食べたら歯を磨きなさい。【文末：働きかけ(命令)】(日)  
 29) 仕事が終わったら飲みに行こうよ。【文末：働きかけ(勧誘)】  
 30) もしこの仕事が8時までに終わったら飲みに行こうよ。  
     【場合の限定 / 文末：働きかけ(勧誘)】  
 31) 高校を卒業したら大学に行きたいな。【文末：表出(希望)】  
 32) [独り言で] そうだ、夏休みになったら旅行に行こう。【文末：表出(意志)】  
 33) 女の子が来たら赤い札、男の子が来たら青い札を渡してください。  
     【選択 / 文末：働きかけ(依頼)】

### 6 後件の反期待性

- 34) あした雪が降ると困るなあ。【懸念】  
 35) [お前が行くのか? 心配だなあ、という気持ちで]  
     お前が行くと話がこわれそうだなあ。【懸念】  
 36) そんな暗いところで本を読んだら目を悪くするよ。【警告】  
 37) そっちへ行ったらはいけません。【禁止】(GAJ)  
 38) ここで煙草を吸ってはダメです。【禁止】(日)

## 7 前件の確実性

今日はお彼岸です。息子さんは今仕事に出かけていますが、3時までには帰って来て、車で墓参りに連れて行ってくれると言っています。昼ごろ近所の人に会い、「お墓参りには行かないの？」と聞かれました。あなたはそれに答えます。

39) 息子が3時に帰って来るから、帰って来たら一緒に出かけます。【前件を確信】

40) 会話A【前件を確信】

客 「おとうさんいますか。」

家人 「今、出かけているんですよ。昼には戻りますけれど...」

客 「ああそうですか。それでは、戻って来たら電話をくれるように言ってください。ちょっと頼みたいことがあるので。」

家人 「わかりました。戻ったらそのように言うておきます。」

41) 会話B【手順の説明】

A 「おひたしてどうやって作るの？」

B 「えーとね、まず、なべにお湯を沸かして」

A 「うん」

B 「お湯が沸いたら塩を少し入れて」

A 「うん」

B 「菜っ葉を根っこの方から入れるの。」

A 「うん」

B 「ゆだったらざるに取って」

A 「うん」

B 「水にさらして冷やすの。」

A 「ふーん。」

B 「冷えたらよく絞って、ちょうどいい長さに切るのよ。」

A 「わかった。」

B 「じゃあ、やってみて。」

## 8 慣用的用法

42) あしたは役場に行かなければならない。【義務】(GAJ)

43) 〔体の弱い友だちにすすめる〕あの温泉に行くといいよ。【すすめ】(準)

44) どうしたらいいかわからない。【困惑】

45) 親が親なら子も子だ。【非難】

## 9 提題・対比用法

46) A 「あの山はなんていう山ですか？」【主題】

B 「あれは岩木山です。」【受取り主題】

47) 日本語は話せるけど、英語は話せません。【対比：肯定 - 否定】

48) あの人は、酒は飲まないけど、ビールは飲む。【対比：否定 - 肯定】(GAJ)

49) 今は車があるけど、昔はリアカーもなかった。【対比：肯定 - 否定・過去】

- 50) あの人たら，昨日のこと全然おぼえていないんだよ。【主題(非難)】

### 1 0 接続詞的用法

- 51) この道をまっすぐに行ってください。そうすれば，郵便局があります。(日)
- 52) A「私は昭和元年生まれです。」  
B「そうすると，今74歳ですね。」
- 53) [別れのあいさつで] では，さようなら。(日)
- 54) A「これ使うなら持って行っていいよ。」  
B「じゃあ，悪いけどちょっと借りるね。」
- 55) [会合の始まりに] では，始めます。
- 56) もしかしたら，あいつは来ないかもしれない。(日)

### 1 1 終助詞的用法

- 57) [リモコンの置き場所をなかなか覚えぬ相手に]  
何度言ったらわかるの。ここにあるってば。【再確認の要求 / 述べたて】
- 58) [一度止めたのにそれでも行こうとする子どもに]  
そっちへは行くなったら。【再確認の要求 / 禁止】
- 59) [お菓子をすすめて] こっちのも食べたら。【勧め】
- 60) やりたいなら勝手にやれば。【突き放し】

## 地域対応

### 1 2 山形県庄内地方項目

この地域の方言では、「バ」に2種の接続がある。例えば「書く」を例にとると、「カケバ」(「-e+バ」)と「カコバ」(「-o+バ」)である。このうち、「-o+バ」は、次のような用例に基づいて「意志仮定」と説明されることがある。

カゴバ カゲツチャ(書くつもりなら書けよ。)(大西 1994)

その「意志性」の有無を確認するために用意した項目である。

- 61) [ノックして]  
だれかいる？いるなら返事して。【人主体・状態】
- 62) たくさんあるなら少しく下さい。【非人主体・状態】
- 63) [天気予報では今日は晴れると言っている]  
晴れるなら畑に出よう。【意志を持たない主体・非意志的】
- 64) 聞こえるなら返事をしなさい。【人主体・非意志的】
- 65) この木，よく育つなら買って行って庭に植えよう。【非人生物主体・非意志的】
- 66) そこがそんなに静かなら私も住んでみたい。【形容動詞】
- 67) 安いなら買いたい。【形容詞】

### 1 3 高知県項目

この地域の方言には、次の例のように、疑問詞を含む文の文末が活用語の仮定形で終わ

る現象が見られ、「疑問詞の係り結び」とも呼ばれる(虫明 1958)。

ナニ<sup>ツ</sup>ガ エラケリヤ。(何がえらいのか)

(『方言談話資料(9)』「場面(3)けんかをする 13.高知県南国市岡豊町滝本」p.182-3行)

そのような形を確認するために用意した項目である。

- 68) いつ  いつ行く(んだ)。  
      いつがいい。  
      始まるのはいつだ。
- 69) どこ  どこへ行く(んだ)。  
      どこがいい。  
      家はどこだ。
- 70) だれ  だれと行く(んだ)。  
      だれがいい。  
      おまえはだれだ。
- 71) 何  何をしに行く(んだ)。  
      何が欲しい。  
      これは何だ。
- 72) どう  どうやって行く(んだ)  
      どうすればいい。  
      ちょっと一杯どうだ。

### 引用文献

大西拓一郎(1994)「鶴岡市大山方言の用言の活用」国立国語研究所『鶴岡方言の記述的研究 - 第3次鶴岡調査 報告1 -』秀英出版

虫明吉治郎(1958)「疑問詞の係結 - 中国方言の場合 - 」『国語学』34

## C 資料

「B 項目」の調査文を作成する過程で行った、仮定条件表現形式の意味用法の記述のための臨地調査の結果の整理の一部を示す。この整理の結果を受けて新たに補った調査文もあるので、「B 項目」の利用例であると同時に、「B 項目」作成の途中経過を示すものでもある。以下の内容は、この科学研究費の研究グループの会議（第3回方言文法調査委員会，1999.3.19，於・国立国語研究所）での報告「津軽方言の仮定表現」に、わずかに補訂をほどこしたものである。

.....

### 津軽方言の仮定表現

調査は1998年11月20～23日に行った。話者は青森県の津軽地方(大鰐町,弘前市,平賀町,浪岡町,青森市,平内町)で生育した9名の方(50代1名,60代6名,70代2名)。ここでは、M.T.さん(調査時67歳,女性,浪岡町で生育・青森市在住)の回答を中心に、60代の方の回答を整理してみる。調査の際に求めたのは、家族や親しい友人とくつろいで話すときのことば、いわゆる伝統的方言である。

なお、この臨地調査に先立って、次の方言談話文字化資料から、順接仮定条件表現を担う接続形式を拾い出し、その意味・用法について、共通語と対照しつつ整理を行っている(三井 1998)。

#### ・「青森県青森市大字牛館」の談話

国立国語研究所編(1980)『方言談話資料(3) - 青森・新潟・愛知 - 』

話者：1903年生・男性，1910年生・男性，1913年生・女性

1978年9月5日収録

収録・文字化担当者：松本宙，収録文字化協力者：佐々木隆次

国立国語研究所編(1987)『方言談話資料(9) - 場面設定の対話 - 』

————— (1987)『方言談話資料(10) - 場面設定の対話 その2 - 』

話者：1903年生・男性，1910年生・男性，1913年生・女性

1979年5月7日収録

収録・文字化担当者：佐々木隆次

#### ・「青森県南津軽郡黒石町」の談話

日本放送協会編(1966)『全国方言資料 第1巻 東北・北海道編』

話者：1902年生・男性，1878年生・男性，1889年生・女性

1953年9月2日収録

調査はこれを踏まえて、仮定表現形式「バ」「タラ」「タキャ」などの意味・用法に関する点を中心に行った。

### 1. 形式

津軽方言の順接仮定条件を担う形式には、「バ」「タラ」があり、その他、もっぱら、一回性の事実的条件を担う「タキヤ」がある。さらに共通語の「なら」に対応する「ダバ」「ダラ」という形式があって、提題の意味でも使われる。「ト」は談話資料に全く現れなかったが、今回の調査でも、ほとんど使われないことがうかがわれた。また、「バ」を含む「セバ」という形が、接続詞として盛んに使われ、意味・用法の点でも特色がある。

これらの形式のうち、ここでは、「バ」「タラ」「タキヤ」の三形式を取り上げる。「ダバ」「ダラ」「ト」「セバ」についての報告は別の機会に譲る。

## 2. 用法の広がり

仮定表現の用法とそれを担う仮定表現形式について、談話資料の分析から、次のような見通しを持っていた。

	バ	タラ	タキヤ
仮説的用法			×
反事実的用法			
一般条件			
反復・習慣用法			
事実的用法	?		

ここではまず、「事実的用法（典型的には「～したら...した。」の形で、すでに実現した一回かぎりの事実について、前件の後、引き続いて後件の事態が生じたことを表す用法）」を除く、他の4つの用法について、調査結果から「バ」と「タラ」の使用状況を見ていく。なお、以下の例文は主に、主たる話者であるM.T.さんから得たものである。それ以外の方の回答については、[ ]内に話者の方の津軽の中での出身地域と調査時の年齢、性別を示す。

「仮説的用法（前件後件とも、まだ実現していないか、実現未実現が確認されていない事態である用法）」では、次のように「バ」が用いられる。

1) アシ タイフ {クレバ / キタラ} ガッコ ヤスミニナルベナー。(明日台風が来たら、学校は休みになるだろう。)【仮説的用法】

「タラ」を使うかどうか確かめると、「通じるけれども使わない」「津軽弁らしくない言い方」「若い人が言う」「新しい」のようなコメントが得られる。ここでは、このようなコメントともに回答された形式に「 」を付して挙げた。

このように「バ」がよく使われ、「タラ」が「言ってもおかしくはない」とされるのは、反事実的条件文、一般条件文でも同様である。

2) モット ハヤグ {オギレバ / オギダラ} エシテアッタ。(もっと早く起きればよかった。)【反事実的用法】

3) イチサ イチ {タヘバ / タシタラ} ニニ ナル。ホッタラモノモ シラネァノガ。(1に1を足せば2になる。そんなことも知らないのか。)[平内・69歳・女]【一般条件】

反復習慣用法では、「タラ」について確認をとっていないが、現在、過去いずれの場合

も、「バ」が優先的に使用されるようである。

4) アッコノ エサ エゲバ ムッタド ゴツツォニ ナルンダイノー。(あそこの家に行くと、いつもごちそうになるんだよねえ。)  
【反復習慣・現在】

5) ムガシ エネカリ シマエバ ミンナサ ゴツツォーシタ。(昔は、稲刈りが終わるとみんなにごちそうした。)  
【反復習慣・過去】

以上のことから、事実的用法を除く各用法では、基本的に「バ」が使われることがわかる。

### 3. 後件の反期待性

談話資料から、津軽方言の仮定表現が共通語と大きく違うのは、後件が「反期待性」と解釈できる内容を表し、かつ、文全体が「禁止」あるいは「回避の必要性」といった伝達的意味を担う文脈で、「バ」が使われる、という点であると観察された。このことは、今回の調査でも確認された。

6) ソツラダ クレイトコデ ホン {ヨメバノ ヨンダラ} マナグ ワルグ スヨー。(そんな暗いところで本を読んだら、目を悪くするよ。)  
【仮說的用法・後件：反期待性 警告】

6)の例は、後件の「目を悪くする」という事態が一般に望ましくない事態であると解釈され、文全体が「警告」の意味を持つ例である。共通語ではこのような文脈では、「ば」は排除され、「と」「たら」「ては」が選択される(蓮沼1987)。しかし津軽方言では、このような文脈でも1)などの例と同様に、「バ」が使われる。次の例は、文全体が「禁止」と「懸念」を表す例である。

7) ソッチサ {エゲバ/ エタラ} マネヨ。(そっちへ行ってはいけない。)  
【仮說的用法・後件：反期待性 禁止】

8) [お前が行くのか？ 心配だなあ、という気持ちで] オメ エゲバ ハナシ キマネジャ。(お前が行くと、話がまとまらないよ。)  
【仮說的用法・後件：反期待性 懸念】

津軽方言では、この点に関して、共通語ではたらいっている語用論的な制約が効いていない、と見ることができる。

### 4. 共起する文末表現の制限

談話資料の分析から、「仮說的用法」において、共起する文末表現に、津軽方言でも共通語と同様の制限があるのではないか、という見通しを持っていた。つまり、「バ」は、働きかけ(命令・依頼・勧誘)や表出(希望・意志)の文末表現とは共起せず、その場合は「タラ」が用いられる、という見通しである。

今回調査してみると、たしかに「タラ」はこのような場合よく使われることがわかった。「2.」「3.」で見たように、文末が述べ立てや推量の表現である場合に「タラ」があまり使われないのとは使用状況が異なっている。

しかし「バ」の文末制限は、共通語とやや異なるようであった。一言でいうと、「バ」の方が、「ば」より制限が緩やかなようである。

まず文末が、働きかけの表現のうち、命令表現である場合は、次のように、「タラ」を

使い, 「バ」は使われない。(補注1)

9) ママ {×ケバ/ク<sup>タ</sup>ラ} ハ ミカ<sup>°</sup>ゲ。(ご飯食べたら, 歯をみがけ。)【仮説的用法・文末: 命令】

依頼の表現である場合も同様である。

10) エギサ {×チゲバ/チ<sup>ダ</sup>ラ} デンワ シテケロ。コジガラ ム<sup>°</sup>ゲ<sup>°</sup>ニ エグハンデ。(駅に着いたら電話してくれ。こっちから迎えに行くから。)【仮説的用法・文末: 依頼】

しかし働きかけの表現でも, 次のような勧誘表現の場合, 「バ」の適格性はずっと上がり, 「タラ」と区別なく使われるようである。

11) シコ<sup>°</sup>ド {オワレバ/オ<sup>ワ</sup>タラ} ノミニ エグベシ。(仕事が終わったら飲みに行こう。)【仮説的用法・文末: 勧誘】

また, 表出の表現でも, 「バ」は「タラ」と適格性の上で違いなく使われる。次の例は希望の表現の例である。

12) ココ {オワレバ/オ<sup>ワ</sup>タラ} ダイカ<sup>°</sup>ク<sup>°</sup>サ エギテ<sup>°</sup>ア<sup>°</sup>ナ。(高校を卒業したら, 大学に行きたいな。)【仮説的用法・文末: 希望】

意志表現でも同様である。

13) ヤスミニ {ナレバ/ナ<sup>タ</sup>ラ} トワダコサ アシビニ イグガ<sup>°</sup>ナー。(休みになったら, 十和田湖に遊びに行こうかな。)[大鰐 弘前・64歳・男]【仮説的用法・文末: 意志】

「動詞終止形+ガ」という形は, 津軽方言での意志表現として一般的な形である。(cf. 『方言文法全国地図』第3集106図~111図, および解説)

次のような申し出の表現も, 意志の表現の一種と見ることができよう。

14) コノ シコ<sup>°</sup>ド {オワレバ/オ<sup>ワ</sup>タラ} イッペ<sup>°</sup>ァ ノマヘルハンデ。クミヘ<sup>°</sup>ダハンデナ。(この仕事が終わったら, 一杯飲ませるから。苦勞をかけたからな。)[大鰐 弘前・64歳・男]【仮説的用法・文末: 申し出】

以上のことから, 共通語の「ば」と津軽方言の「バ」の, 文末表現の共起関係をまとめると, 次のようになる。

文末表現	働きかけ			表出		
	命令	依頼	勧誘	希望	意志	申し出
共通語	×	×		×?		
津軽方言	×	×				

津軽方言の「バ」は, 相手への強い働きかけを表す文末表現とは共起しないが, 同じ働きかけでも, 「勧誘」といった働きかけのより弱い文末表現とは共起する。働きかけを含まない, 表出の表現とは共起制限がない, というようにまとめられようか。

ただし, 共通語においても, 11), 13), 14)のような場合, 前件のことから(「仕事が終わる」「休みになる」)が, 時間の推移とともにおのずから成立する, という解釈ではなく, 成立するかしなにかわからないが仮に成立する場合, という解釈であれば, 「ば」を用いることも可能なように思われる。この点は次で取り上げる「前件の確実性」にもかか

わり，さらに検討が必要である。

## 5．前件の確実性

共通語の「ば」と「たら」について，前件の事態が，実現することが確実と文脈上理解される場合には，「ば」が用いられにくい，という指摘がある。

・〔料理の手順の説明で〕鍋に材料とスープを入れます。火にかけて，{煮立てば / 煮立ったら}，火を弱めます。

しかし談話資料の中には，文脈から，前件の事態の実現が確実に見込まれると解釈されるにもかかわらず，「バ」が用いられる例が見られた。そこで調査では，次のようなスキットを作り，それを方言に訳してもらおうという方法で調査を行った。 の下線部が注目点である。

・ 客 「お父さんいますか。」

家人 「今，出かけているんですよ。昼には戻りますけれど…」

客 「ああそうですか。それでは，戻って来たら電話をくれるように言ってください。ちょっと頼みたいことがあるので。」

家人 「わかりました。戻ったらそのように言うておきます。」

これに対して次のような回答が得られた。（平賀・68歳・女）

15) 客 「オド エダナ。」

家人 「エマ デテ エネバテ ヒルマダバ クルネ。」

客 「アー ソンダナ。ヒエバ {×モドツテクレバ / モドツテキタラ} デンワ カゲルニ シャベテケロ。チット タノミテァ コト アルハ<sup>ン</sup>デ。」

家人 「ワガッタ。{モ<sup>ン</sup>ドレバ / モ<sup>ン</sup>ドタラ} ソシテ シャベテオクハ<sup>ン</sup>デ。」

【仮説適用法・前件：実現に確実性あり】

このスキットでは，「オドが昼に帰ってくる」ということは，話し手である「家人」には確実に実現する事態として捉えられていると解釈できる。この文脈の の発話で，「バ」は「タラ」と適格性の上で差はなく使われるようである。ニュアンスの上でも，例えば，「バ」を使うと「戻らないかもしれない」という含みが強まる，という違いもないようである。

なお，「2 .」の例文1)などと違って，このスキットの と の例で「タラ」が普通に用いられるのには，前件の確実性ということのほかにも，「4 .」で取り上げた文末表現の種類（ では意志表現， では依頼表現）が関係すると思われる。

## 6．事実的用法

事実的用法とは，すでに実現した一回かぎりの事態について，前件の後，引き続いて後件の事態が生じたことを表す用法である。したがって実は「仮定」表現ではないとも言えるのだが，共通語では，仮定表現と共通の形式「たら」「と」が，この用法も持つので，ここで扱う。

津軽方言で事実的条件を担う代表的な形式は「タキヤ」である。

16) ジカン マチカ<sup>テ</sup> {エツタキヤ / エツタラ / ×エゲバ} オワテタジャ。（時

間を間違えて行ったら、〔もう会は〕終わっていた。)【事実的用法・完成相】

17) キンナ オモデデ シゴト {シテラキャ/シテエダキャ/ シテエタラ/×シテエレバ} アメッコ フツキタ。(きのう外で仕事をしていたら、雨が降ってきた。)

【事実的用法・継続相】

この用法での「タラ」は「新しい言い方」とされ、「バ」は「言わない」とされる。

談話資料の中には、「バ」が、事実的用法で用いられているように見える例があった。

18) ヤゲダ アドサ エゲバ スンダ フトモナモ ソツコツネ ゴロゴロゴロゴロテヨー ウン ヤヤ ミラエダ モンデ ネフタエナー。(〔青森空襲の後〕焼けた跡へ行くと、死んだ人も何も、そちこちにごろごろごろごろとよう、うん、やあやあ、見られたもんでなかったよなあ。)(『方言談話資料(3)』p.130-7行)

この例は「〔青森空襲の後〕ヤゲダアドサエグ」という一回かぎりの事態が実現したのにもなって、後件の「スンダフトゴロゴロテ〔転がっている〕」という事態を発見した、ということ述べていると思われる。

しかし上述のように、話者の内省では16)17)のような事実的条件文では、「バ」は使えないとされる。そこで、18)を下敷きにして次のような文を作り、これを方言訳してもらった。問題の部分は、「行くと」「行ったら」ではなく、「行けば」として提示した。

・空襲の後、人がたくさん逃げてきました。焼け跡に行けば、亡くなった人がたくさん倒れているし、とてもひどい様子でした。

これに対する回答は、例えば次のようである。

19) クーシューノ アド フト ジンブ ニケテキタジャ。ヤゲダ アドサ {エタキャ/エタラ/×エゲバ} シンダ フト イッペア タオレテエルシ トニカグ シンデヘタジャ。【事実的用法】

やはり、「タキャ」または「タラ」を使い、「バ」とは言わない、という回答である。

実は共通語の「ば」にも、このような事実的用法があることはある。しかし用例が少なく、使われるとしても後件が過去形でない方が自然であったり、かたい・古いなどの文体的なニュアンスを帯びているとされる。

・私はクゼールで停泊中によほど潜ろうかと考えたが、やはりまだ水は冷たそうである。次ぎのコロンの港で実行しようと予定していたところ、港に着けばやはり陸上の方が面白そうで、おまけに港の海はどろりと濁っており、ついにやらずにしまった。(どくとるマンボウ航海記)(前田(1997)より)

この方言でも18)のような例は、何らかの意味で周辺的な用例かもしれないと思われた。そこで、この部分について、『方言談話資料』の収録・文字化担当者であり、ご自身も青森市のご出身である佐々木隆次氏(1935年生)に、この部分がどのようなニュアンスを持つ表現であるのかうかがった。

佐々木さんによると、18)の「バ」の使い方は青森市方言として特に違和感があるものではない、ということである。そして、意味は「ヤゲダ アドサ エッタキャ～」と言ったときと変わらないものの、「エゲバ」と「エッタキャ」を比べると、「エゲバ」の方が何年もたった後に回想しているような感じがするのに対し、「エッタキャ」の方が臨場感、現実感があるように感じられる、とのことであった。ただし、両者の違いはそれほどすぐにはっきりと感じ取られるものでもなく、あえて言えばそのように説明できるかもしれな

い、といった性質のものであるように思われた。

以上のことから、津軽方言において事実的用法を担う代表的な形式は「タキャ」であること、「バ」はこの用法で用いられることがあるにしても、何らかの限られた場合であるらしいことがわかった。

なお、「タキャ」の用法について少し補足しておく。

まず、「すでに実現した一回かぎりの事態」を表す文であっても、次のような例では、「タキャ」は使われない。

20) [難しい試験で80点を取った子どもに]ナダバ コンキ {×トタキャ/トレバ} タクサンダネ。(おまえは、これだけ取れば充分だよ。)(大鰐 弘前・64歳・男)【事実的用法・後件：評価】

この例の後件は、すでに実現した前件の事態を評価する内容である。このように、前件と後件が引き続き生起するという関係にない場合は、「タキャ」は使えず、「バ」が使われる。この話者が、「タキャ」を使った適格な例文として提示したのは、次のような文である。共通語訳も話者によるものである。

21) ワキャ コンキ トタキャ ホメラエタネ。(私は、これだけ取ったから〔うちの人に〕ほめられたよ。)  
【事実的用法・後件：事態】

この文の後件は、前件の「〔点数を〕トタ」という事態に引き続いて生起した事態(「ホメラエル」という関係にある。

また、「タキャ(テラキャ)」は従属節末だけでなく、文末に現れることもある。また、従属節末に使われる例だけを見ても、事実的用法とはやや異なる用法も持つようである。

22) キノー アメ フッテ タイシタ サムグネフテアッタバタテ キョー ユギ フテラキャ サムエ。(青森・63歳・男)

この文は一見、意味が把握しにくいだが、話者の説明によると、前半の「キノー アメ フッテ タイシタ サムグネフテアッタ(昨日は雨がふってあまり寒くなかった)」と、後半の「キョー ユギ フテ サムエ(今日は雪が降って寒い)」とを対比させた表現で、後半をあえて共通語にしようとする、「今日雪が降っているのは寒いんだ」のようになるかもしれない、という。

「タキャ」は語構成の上から「タ+キャ」と分解することができる。此島(1968, p.154)によるとこの「キャ」は「係助詞」とされている。21)の「ワキャ」がその例であるが、他に「ダキャ」という形でいろいろな語に付く。

23) アノ フトダキャ ソンチョー サネバダキャ マンダ マダ マンダ マダダキャ コーユー ハスダキャ タダネンデア。(あの人(が)村長(を)しないならば、まだまだまだ、こういう橋は建たないんだ。)(『方言談話資料3』p.76-12行)

このように見てくると、「タキャ」については、22)のような用法も含め、「キャ」の意味用法との関連について考えていく必要があるように思われる。ここでは、共通語との対照を入口としたので、事実的用法を担う接続形式として「タキャ」を取り上げたが、あるいは、「タキャ」の基本的意味は、事実的用法とはずれたところにある可能性もあるだろう。

以上、津軽方言の仮定表現を担う形式についての調査結果の一部を、おもに共通語の仮定表現を担う形式の意味用法との対照の観点から整理してきた。ここでは個々の現象の記

述にとどまり、津軽方言自体の条件表現接辞の体系の記述にまでは考察が及んでいない。今後の課題としたい。

補注1 ただし、全国7地域で仮定表現「～バ」の適格性を調査した日高(1999)によれば、このように文末が働きかけの表現(要求文)である場合も、津軽地方では、他の方言を圧して「バ」の許容度が高い。調査文の文脈、発話状況、調査法、位相などの諸条件を視野に入れた上で、ここでの結果をあらためて位置づけるべきだろう。(日高(1999)は、標準語スタイルについて、アンケートによる量的調査を行っている。)

### 引用文献

此島正年(1968)『新版青森県の方言』津軽書房

蓮沼昭子(1987)「条件文における日常的推論 - 「テハ」と「バ」の選択要因をめぐって - 」『国語学』150

日高水穂(1999)「ことばに関するアンケート調査1997-1998」『秋田大学ことばの調査』第1集

前田直子(1997)「現代日本語の条件文とその指導」『単文から複文へ - 中級をわかりやすく - 』AJALT公開研修講座資料

三井はるみ(1998)「方言の条件表現 - 『方言談話資料』と『方言文法全国地図』からの研究の可能性 - 」『国立国語研究所創立50周年記念研究発表会資料集』